

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議は、年1回開催から年2回開催へと増やしたが、グループホームの役割や地域とのつながりの強化を考えると、さらに開催回数を増やしていく必要がある。	平成23年度は、平成22年度よりも開催回数を増やすとともに、会議内容も相互が気軽に意見交換ができるような雰囲気作りを目指して取り組みたい。	平成23年度第1回の運営推進会議の開催時に、各委員に対して趣旨を説明し、地域とのつながりの強化に関する意見交換ができるよう開催回数の増加や会議内容について協力をお願いしていく。	12ヶ月
2	26	介護計画は定期的にモニタリングを行い、できるだけその人らしい計画作りを心がけているが、入居者個々の「自信・意欲」の向上を支援する内容までには至っていない。	介護計画は定期的にモニタリングを行い、できるだけその人らしい計画作りを心がけているが、さらに入居者個々の「自信・意欲」の向上を図り、「役割」が持てるような計画作りに取り組みきたい。	職員全員が入居者個々の理解を一層深めるとともに、本人・家族等からも再度情報を得ながら「自信・意欲・役割」というキーワードを大切にされた計画作りに取り組みきたい。	6ヶ月
3	40	食事の準備や後片付けについては、入居者ができるレベルで関わってもらっている。しかし、一緒に食事をすることについては、入居者と同じ料理を食べていないケースや職員の業務内容により食事時間が異なるケースが見られる。	入居者と同じ生活時間を共有することの大切さについて、職員全員が再認識するよう話し合うとともに、入居者と同じ料理を一緒に食べる環境となるよう取り組んでいく。	職員会議やミーティング等で周知徹底を図り、職員が同じテーブルで同じ料理を食べるように取り組んでいる。また菓の配布や見守りは、入居者のペースを尊重しながら同じ目線で関わっている。	1ヶ月
4	10	本人や家族の意見等を聞く場合には、地域的な問題や遠方の家族のケースもあり、電話による連絡が多い。そのた直接に意見を聞く機会は家族の訪問時となってしまふ。	家族が気軽・適切に意見が言え、またホーム側は丁寧に関けるといふ関係を構築できるよう職員の資質の向上や雰囲気作りができるよう努めていきたい。	定期的な家族へのお便り等の充実やあらかじめ家族が訪問する日がわかるときには、事前に相談したい内容等を知らせておくなどの配慮をしていきたい。職員と家族との信頼関係を大切にしていきたい。	6ヶ月
5	33	重度化した場合や終末期のあり方に関しては、現在、該当するケースはないものの、高齢・重度化しつつある入居者の状況を考えると、事業所として一定の方針を決定すると共に、あらかじめ家族等へ説明しておく必要がある。	専門職の配置や訪問看護・医師などの地域的課題もあるが、早急に事業所としての方針を決めていきたい。	職員会議における検討会議を含めて、来年度中に方針を決定し、入居中の家族へ説明をして理解を得るように取り組みきたい。	3ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。